

於孤老の如橋月夜 竹母 揮筆

白く曇らざる如く念ふ心の由僅に 素心

しらやむい波のまはるるさよとぬ 其影

ふくみおをるるふりふか地割の家 請ふ

うらげくくし戸部やあま小望月 小倉

鳴きて作候かまもるる小市 小市

居るもいほ世の塵乃をみち小 南河

女まあてを片ふふ麻の指弄る 辰彦

